

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)
<p style="text-align: center;">公立大学法人高知工科大学中期目標</p> <p>高知工科大学は、県内学生の進学機会の拡充及び若者の県内定着を図るとともに、県内産業、中でも第2次産業を支える人材の育成を始め、県内企業の技術力及び研究開発力の強化、更には、新たな産業の創出などを推進するために県が設立した大学である。</p> <p>公立大学法人化によって、高知工科大学は、これまで以上に県との連携が強まり、県の施策の方向性及び公立大学法人の設立目的に沿って人材育成及び研究活動を行うことで、地域に貢献する大学として、将来にわたってその役割を果たしていかなければならない。</p> <p>このため、公立大学法人高知工科大学（以下「法人」という。）は、高知工科大学がこれまで以上に、地域に貢献すべき大学であるということを深く認識した上で、「人が育つ場」として、また、「開かれた研究の場」として、人材育成及び教育研究活動を活性化させることにより、魅力ある大学づくりを進めていく必要がある。</p> <p>高知県は、法人が次に掲げる「継承」及び「進化」の視点を重視するとともに、法人が設置する大学の基本理念及び法人としてのあるべき方向性を踏まえながら、自主的、自律的かつ効率的な大学運営を行うことによって、より一層県民の期待及び負託に応えていくよう、この中期目標を定め、法人に指示するものである。</p> <p>1 システムの継承</p> <p>高知工科大学は、開学以来、学生の個性を大切にしつつその才能を引き出すことを目標に、「人が育つ」大学となるための様々な取組を行ってきた。</p> <p>学校法人から公立大学法人に移行するに際して、第一に、学校法人の高い自由度の中で培われてきた多様で優れたシステムを継承するとともに、更なる改善を図っていく。</p> <p>2 絶えざる進化</p> <p>また、高知工科大学は、「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」ことを方針として掲げてきた。法人が設置する大学は、この方針を堅持しつつ、時代の変化に即応し、更に新たな未来を切り拓くために進化し続ける存在となる。</p> <p>この進化の方向として、「新しい高知づくりに貢献する」ため、地域再生の核としての役割並びに知の創造及び集積の拠点としての役割を担っていく。</p> <p>(1) 法人としてのあるべき方向性</p> <p>ア 豊かな人間性、高い専門性及び広い視野を持った有為な人材を育成するための教育体制を確立する。</p> <p>イ 社会人教育等、県民ニーズにも応えていけるための教育体制を確立する。</p> <p>ウ 持続的かつ高度な研究並びに地域の再生及び発展につながる研究を教育及び社会貢献につなげながら進展させる。</p> <p>エ 職員の能力の十分な発揮を図るとともに、効率的で質の高い業務運営体制を構築する。</p> <p>オ 積極的な外部資金の獲得及び効果的かつ効率的な経費の執行により、計画的に財務の改善を図る。</p> <p>カ 厳正な自己点検及び評価並びに第三者評価を実施し、評価結果を大学運営に反映させる。</p>	<p style="text-align: center;">公立大学法人高知工科大学中期計画</p> <p>目次</p> <p>第1 中期計画の期間及び教育研究上の基本組織</p> <p>第2 高知工科大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</p> <p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>第5 教育・研究及び組織運営に関する自己点検・評価並びに情報提供に関する目標を達成するための措置</p> <p>第6 その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置</p> <p>第7 その他記載事項</p>	<p style="text-align: center;">公立大学法人高知工科大学年度計画（平成 25 年度）</p> <p>目次</p> <p>第1 年度計画の期間及び教育研究上の基本組織</p> <p>第2 高知工科大学の教育、研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</p> <p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標を達成するための措置</p> <p>第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置</p>

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)																																																															
<p>(2) 法人が設置する大学の基本理念</p> <p>ア 人材育成 「人が育つ場」としての法人が設置する大学の発展及び新しい教育システムの推進</p> <p>イ 一流の研究成果 研究実績向上のためのシステム改善及び新しい公立大学としての教育研究力の再構築</p> <p>ウ 地域貢献 地域再生のための新しいプログラム作りを通じた連携及び貢献</p> <p>第1 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織</p> <p>1 中期目標の期間 平成21年4月1日から平成27年3月31日までの6年間とする。</p> <p>2 教育研究上の基本組織 中期目標を達成するため、法人に次のとおり教育研究上の基本組織を置く。</p> <p>(1) 学群及び学部並びに大学院研究科</p> <table border="1" data-bbox="231 800 937 1104"> <tr><td rowspan="4">学群・学部</td><td>システム工学群</td><td></td></tr> <tr><td>環境理工学群</td><td></td></tr> <tr><td>情報学群</td><td></td></tr> <tr><td>マネジメント学部</td><td>マネジメント学科</td></tr> <tr><td>大学院研究科</td><td>工学研究科</td><td>基盤工学専攻</td></tr> </table> <p>(2) 研究所等</p> <table border="1" data-bbox="231 1142 777 1570"> <tr><td rowspan="2">地域連携機構</td><td>連携研究センター</td></tr> <tr><td>地域連携センター</td></tr> <tr><td rowspan="3">研究所</td><td>総合研究所</td></tr> <tr><td>社会マネジメント研究所</td></tr> <tr><td>ナノデバイス研究所</td></tr> <tr><td>研究センター</td><td>ナノ創製センター</td></tr> </table> <p>第2 法人が設置する大学（以下「高知工科大学」という。）の教育、研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育の質の向上に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>高知工科大学は、広い分野の知識及び高度で専門的な学術を教授することによって、豊かな人間性、高い専門性及び広い視野を持った有為な人材を育成する。</p> <p>学士課程においては、人間性を高めるための教養を身に付けるとともに、職業人としての基礎的な能力を涵養し、自ら学ぶ力を身に付け、自らが社会人としての将来</p>	学群・学部	システム工学群		環境理工学群		情報学群		マネジメント学部	マネジメント学科	大学院研究科	工学研究科	基盤工学専攻	地域連携機構	連携研究センター	地域連携センター	研究所	総合研究所	社会マネジメント研究所	ナノデバイス研究所	研究センター	ナノ創製センター	<p>計画</p> <p>第1 中期計画の期間及び教育研究上の基本組織</p> <p>1 中期計画の期間 平成21年4月1日から平成27年3月31日までの6年間とする。</p> <p>2 教育研究上の基本組織</p> <p>(1) 学群及び学部並びに大学院研究科</p> <table border="1" data-bbox="1130 800 1837 1104"> <tr><td rowspan="4">学群・学部</td><td>システム工学群</td><td></td></tr> <tr><td>環境理工学群</td><td></td></tr> <tr><td>情報学群</td><td></td></tr> <tr><td>マネジメント学部</td><td>マネジメント学科</td></tr> <tr><td>大学院研究科</td><td>工学研究科</td><td>基盤工学専攻</td></tr> </table> <p>(2) 研究所等</p> <table border="1" data-bbox="1130 1142 1676 1570"> <tr><td rowspan="2">地域連携機構</td><td>連携研究センター</td></tr> <tr><td>地域連携センター</td></tr> <tr><td rowspan="3">研究所</td><td>総合研究所</td></tr> <tr><td>社会マネジメント研究所</td></tr> <tr><td>ナノデバイス研究所</td></tr> <tr><td>研究センター</td><td>ナノ創製センター</td></tr> </table> <p>第2 高知工科大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 教育効果の向上を図るために、少人数教育や学生への個別指導を実施する。</p> <p>2. マネジメント学部に加え、工学部をシステム工学群、環境理工学群、情報学群の工学系3学群に改編することによって、単一の狭い専門分野だけではなく</p>	学群・学部	システム工学群		環境理工学群		情報学群		マネジメント学部	マネジメント学科	大学院研究科	工学研究科	基盤工学専攻	地域連携機構	連携研究センター	地域連携センター	研究所	総合研究所	社会マネジメント研究所	ナノデバイス研究所	研究センター	ナノ創製センター	<p>計画</p> <p>第1 年度計画の期間及び教育研究上の基本組織</p> <p>1 年度計画の期間 平成25年4月1日から平成26年3月31日まで</p> <p>2 教育研究上の基本組織</p> <p>(1) 学群及び学部並びに大学院研究科</p> <table border="1" data-bbox="2027 800 2733 1104"> <tr><td rowspan="4">学群・学部</td><td>システム工学群</td><td></td></tr> <tr><td>環境理工学群</td><td></td></tr> <tr><td>情報学群</td><td></td></tr> <tr><td>マネジメント学部</td><td>マネジメント学科</td></tr> <tr><td>大学院研究科</td><td>工学研究科</td><td>基盤工学専攻</td></tr> </table> <p>(2) 研究所等</p> <table border="1" data-bbox="2027 1142 2591 1528"> <tr><td rowspan="2">地域連携機構</td><td>連携研究センター</td></tr> <tr><td>地域連携センター</td></tr> <tr><td rowspan="2">研究所</td><td>社会マネジメントシステム研究センター</td></tr> <tr><td>総合研究所</td></tr> <tr><td rowspan="2">研究所</td><td>総合研究所</td></tr> <tr><td>ナノテクノロジー研究所</td></tr> </table> <p>第2 高知工科大学の教育、研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 学生への教育効果の向上を図るため、継続して少人数教育や個別指導を実施する。</p> <p>2-1 単一の専門分野だけではなく、様々な関連領域を幅広く学ぶ事ができるようにするため、副専攻の選択を強く奨励する。</p>	学群・学部	システム工学群		環境理工学群		情報学群		マネジメント学部	マネジメント学科	大学院研究科	工学研究科	基盤工学専攻	地域連携機構	連携研究センター	地域連携センター	研究所	社会マネジメントシステム研究センター	総合研究所	研究所	総合研究所	ナノテクノロジー研究所
学群・学部		システム工学群																																																															
		環境理工学群																																																															
		情報学群																																																															
	マネジメント学部	マネジメント学科																																																															
大学院研究科	工学研究科	基盤工学専攻																																																															
地域連携機構	連携研究センター																																																																
	地域連携センター																																																																
研究所	総合研究所																																																																
	社会マネジメント研究所																																																																
	ナノデバイス研究所																																																																
研究センター	ナノ創製センター																																																																
学群・学部	システム工学群																																																																
	環境理工学群																																																																
	情報学群																																																																
	マネジメント学部	マネジメント学科																																																															
大学院研究科	工学研究科	基盤工学専攻																																																															
地域連携機構	連携研究センター																																																																
	地域連携センター																																																																
研究所	総合研究所																																																																
	社会マネジメント研究所																																																																
	ナノデバイス研究所																																																																
研究センター	ナノ創製センター																																																																
学群・学部	システム工学群																																																																
	環境理工学群																																																																
	情報学群																																																																
	マネジメント学部	マネジメント学科																																																															
大学院研究科	工学研究科	基盤工学専攻																																																															
地域連携機構	連携研究センター																																																																
	地域連携センター																																																																
研究所	社会マネジメントシステム研究センター																																																																
	総合研究所																																																																
研究所	総合研究所																																																																
	ナノテクノロジー研究所																																																																

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)
<p>を形成することができるよう導く。</p> <p>大学院課程においては、高度研究者あるいは高度技術者としての社会的役割を担える能力を獲得し、それにより自己実現を果たすことができるよう導く。</p> <p>(2) 教育の内容等に関する目標</p> <p>平成20年度にマネジメント学部を開設し、更に平成21年度には、工学系学群を立ち上げることを踏まえ、これらの新しい教育システムを活かしながら、有為な人材を育成するための具体的な教育方針及び教育方法を定める。</p> <p>また、各授業科目の到達目標及び成績評価基準を明確にすることによって、学生がどこまで到達すれば学位が授与されるのかに関する方針を定める。</p> <p>(3) 教育の実施体制に関する目標</p> <p>高知工科大学の基本理念に基づいた人材を育成するために必要な教育体制を整備するとともに、教育の成果に関する目標を効果的に達成するために必要な教育プログラムの提供及び教員配置を行う。</p> <p>学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るために、学生の学習環境を計画的に整備する。</p> <p>更に、教育の質的向上を目指して、FD（教育方法についての研究会の開催及び新任教員のための研修の実施その他の教員が授業の内容及び方法を改善し、及び向上させるための組織的な取組の総称をいう。）体制を構築するとともに、他の教育機関との交流及び連携を推進する。</p>	<p>様々な関連領域を幅広く学ぶことの出来る教育を提供する。</p> <p>3. 大学院修士課程においては、学士課程より深い専門知識や問題発見・解決能力を身につけた人材を育成するとともに、さらに博士後期課程においては高度な専門的能力を有する高度技術者及び高度研究者を養成する。</p> <p>4. 学生の学習意欲を増進するために、各種表彰制度を実施する。</p> <p>5. 教育成果の改善に活かすために、企業や卒業生からの意見を聴取する。</p> <p>(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 学生による授業評価を行い、これを教員評価に反映させる。</p> <p>2. 大学教育への順調な接続を図るために、導入教育を充実させる。</p> <p>3. 職業人としての基礎的な能力を獲得させるために、キャリア教育を行う。</p> <p>4. 国際コミュニケーション力を涵養するために、学生の国際学会発表を奨励する。</p> <p>(3) 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 大学教育の質向上を図るために、工学部を工学系3学群へ改編するとともに、学士課程教育及び大学院教育における教育プログラムを継続的に改善する。</p> <p>2. マネジメント学部や工学系学群における学士課程教育に対応するため、より効果的な大学院教育プログラムを検討し、必要な取り組みを行う。</p> <p>3. 年次進行による着実な学力の向上と卒業時の学力到達水準の保持を目指して、クォータ制と総合評価制度（GPA）を実施する。</p> <p>4. 高度化したシラバスや教材等の提供により、学生の自主的学習を支援する。</p> <p>5. 学生の特徴や状況を十分に把握できるようにするために、教務関連情報を処理するシステムを作成する。</p>	<p>3-1 より深い専門知識や問題発見・解決能力を身につけた人材を育成するため、引き続き大学院修士課程・博士後期課程ともに授業内容等を見直し、教育を充実する。</p> <p>4-1 学生に対する表彰制度及び特待生制度を継続する。</p> <p>また、学長賞など新設した表彰を適切に運用する。</p> <p>5-1 大学説明会・情報交換会を開催し卒業生採用企業の意見を聴取するとともに、県内外の経済団体等から幅広い意見聴取を行う。</p> <p>また、同窓会と連携し、卒業生から意見聴取を行う。</p> <p>(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 授業の改善による教育の質の向上に資するために、授業評価を継続し、その結果を引き続き教員評価に反映する。</p> <p>2-1 教育講師によるスタディスキルズ、習熟度別クラス編成などを通じて、入学時学力の早期向上を図るリメディアル教育（学力再生教育）を継続する。</p> <p>3-1 教育講師を中心としながら専門教員も参加して、総合的キャリア教育を充実させるとともに、インターンシップ派遣先の新規開拓を行う。</p> <p>また、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を通じた取り組みを行う。</p> <p>4-1 大学院博士後期課程の専門領域科目について、全科目を英語で開講する。</p> <p>日本人学生の海外での学会発表を支援する仕組みを制度化するとともに、修士課程学生の海外研修の実施について、検討を継続する。</p> <p>また、交流協定大学と連携した海外インターンシップの導入を検討するとともに、海外研修や国内外での国際サマースクールへの参加を促進する仕組みを検討する。</p> <p>(3) 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 幅広い知識を身につけるとともに人間力の向上につながる教育を実践するため、教養教育科目の充実を図る。</p> <p>意欲の高い学生を支援するため、新たな教育プログラムの開発を行う。</p> <p>新たな社会科学系学部の設置に向けて、特色ある教育プログラムの開発を行う。</p> <p>2-1 学士課程教育と大学院教育との継続性や一貫性を持った教育プログラムを継続的に検討する。</p> <p>修士課程及び博士後期課程ともにグローバル人材育成を含む共通科目の強化と専門科目における専門性の深さと学際的な広がりバランスを考慮した教育プログラムの検討を行う。</p> <p>3-1 短時間で集中的な履修を可能とするクォータ制度を継続する。</p> <p>成績評価方法・評価結果の学内公開とその分析を継続的に行うことにより、現状の成績評価を検証し、その最適化を図る。</p> <p>4-1 学生の自主的学習を支援するため、LMS（Learning Management System）の導入を検討する。</p> <p>学生の利用環境に考慮した自主的学習を支援するため、オンラインデータベースの参考資料を充実させる。</p> <p>5-1 前年度に新たに導入したポータルシステム（学生の学籍・成績情報等に関するシステム）について、運用において改善すべき点がないか常に見直し、必要な</p>

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)
<p>(4) 学生支援に関する目標 学生ニーズを把握した上で、学生の健康管理及び生活相談並びに就職活動などに対する具体的な支援方法を明確にし、学生にとって満足度の高いサービスの提供を図る。</p> <p>(5) 学生の受入れに関する目標 高知工科大学の基本理念及び教育方針に基づいた入学生の受入れ方針を明確にするとともに、その受入れ方針に沿った様々な選抜方法を導入することによって、目的意識の高い、向学心旺盛な人材を確保する。</p>	<p>6. 県内高校や四国内の大学など他の教育機関との戦略的教育連携を図る。</p> <p>7. 卒業生が活躍できる場を広げるため、教職課程を継続的に改善する。</p> <p>8. 専門的能力をより一層充実させるとともに、指導力とコミュニケーション力の涵養を図るために、大学院生をTAとして採用する。</p> <p>9. 教育力向上を図るために、組織的なFD (Faculty Development; 教員研修) 活動およびSD (Staff Development : 職員研修) 活動を行う。</p> <p>(4) 学生支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 学生の身体的・精神的な健康を増進し、安全・安心をキーワードに学生支援の充実を図る。</p> <p>2. 学生に対する就職支援とキャリア支援を行う。</p> <p>3. 学業以外でも充実した学生生活を行うための学生生活支援を行う。</p> <p>4. 学会等での論文発表など学外での成果発表を奨励するために、学生に対して旅費その他の経費を支援する。</p> <p>(5) 学生の受け入れに関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 高知県内高校からの入学を支援するために、奨学制度その他の措置を導入する。</p> <p>2. 受験機会を拡大するために、多様な入学試験と奨学制度を実施する。</p>	<p>場合はシステムのカスタマイズを行う。</p> <p>6-1 戦略的大学連携事業により、四国内の他の大学と連携することによって、教育環境の向上や教育効果の改善を継続する。 また、「産業界のニーズに対応するための教育改善・充実体制整備事業」により、中四国の大学の学生間交流を促進させ教育連携を図る。 県内中学・高等学校との中大・高大連携の取組みを継続する。</p> <p>7-1 中学(社会)免許の追加設置により、教職課程に登録する学生が大幅に増加することが予測されるため、学生数増加に対応できる教育システム構築の準備を行うとともに、平成 27 年度のマネジメント学部の永国寺キャンパス移転と学部改組に伴う教職課程の再申請の準備を行う。 学校サポーターWeb システム (SEEK)、卒業生名簿・掲示板システム (SEEK II)、履修カルテ等を使いやすいようにするため、システム等の改善を図る。 教員採用試験の対応指導等をきめ細やかに実施する。</p> <p>8-1 TA 制度を十分に活用し、教育補助による大学院生の指導力・コミュニケーション力等について、一層の向上を目指す。</p> <p>9-1 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD) 等を活用して、教員に対するFD 活動及び事務職員に対するSD 活動を引き続き推進する。 国際的研究活動の推進等グローバル化に対応するため、海外の教育研究機関で教員及び事務職員対象の研修を企画・実施する。</p> <p>(4) 学生支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 大幅に増設したAED の使用法、南海大地震発生を想定しての救急応急処置法の講習をスポーツクラブ所属学生に実施する。 食育教育を座学だけでなく実習型教育と捉え、香美市・保健所と協同で実施する。 「集いやすく気軽に相談できるフリースペース」の啓発活動としてランチ会を実施し、気になる学生を誘い学生生活における悩み事の早期発見、早期支援につなげる。</p> <p>2-1 企業との情報交換及び新規求人の開拓を目的に大学説明会・企業懇談会を開催する。 また、学内において学内合同会社説明会を引き続き開催するとともに、キャリアコンサルタントによる支援を充実する。</p> <p>3-1 課外活動充実のため引き続き運動施設の充実を行う。 学生支援バスの追加導入により、効果的かつ効率的な運航を行い、遠征等の支援につなげるとともに、運動系団体に限らず、文科系学生団体にも合宿や他大学との交流等を行うよう促し、積極的に支援する。 経済的支援を兼ねたSA 制度を継続する。</p> <p>4-1 教員への個人教育配分額を維持し、学生の学外での成果発表に必要な旅費等経費を支援する。 また、国際学会での論文発表を奨励するため、学生の海外旅費を支援する仕組みを制度化する。</p> <p>(5) 学生の受入れに関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 県内枠の募集数については、高校側の変化の状況も踏まえ、改善策を検討する。 また、県内出身者に対する授業料免除制度を継続する。</p> <p>2-1 推薦入試において、特待生制度の導入を検討する。</p>

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)
<p>その際は、県内高校生及び社会人の進学機会の確保を図るための方針を明確にする。</p> <p>2 研究の質の向上に関する目標 (1) 研究水準及び研究成果に関する目標 先端的分野及び学際的分野を含めた様々な専門分野において、持続的かつ高度な研究を行い、世界に通用する研究成果を上げるとともに、研究活動の活性化及びその成果の還元を図る。</p> <p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標 組織の枠組みを超えて、戦略的に先端的かつ学際的な研究を行う「場」としての環境を整備することによって、「開かれた研究の場」を構築していく。 更に、知の最先端を目指して、世界に通用する研究を行うため、優れた研究の芽には、高知工科大学が持つ人的及び物的資源の重点投資を行い、研究活動の充実を図る。</p> <p>3 社会貢献の質の向上に関する目標 (1) 地域連携に関する目標 地域の現状を踏まえながら、新たに設置する「地域連携機構」を中心に、地域に貢献する大学として、地域の再生及び発展につながる研究を教育及び社会貢献につなげながら進展させる。</p>	<p>3. 大学院生・留学生及び社会人学生の増加を図るために、各種の措置を講ずる。</p> <p>4. 大学の特徴及び入学生受け入れ方針を、全国に周知するために、各種広報手段を活用する。</p> <p>2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果に関する目標を達成するための措置 1. 学内における各領域の研究を互いに紹介して常に連携や共同研究を模索する。</p> <p>2. 国際的研究活動を推進するため、留学生や研究生の増員を図る。</p> <p>3. 応用的な研究と基礎的な研究とのバランスをふまえながら、研究を進展させる。</p> <p>4. 他の教育機関との戦略的な共同研究を図る。</p> <p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置 1. 地域連携機構を発足させるとともに、研究本部、地域連携機構、総合研究所を中心とする研究体制の構築を図る。</p> <p>2. 研究を継続的に発展させるために、研究費の獲得や研究の継続的实施を支援するための措置を講ずる。</p> <p>3. 重要な研究領域に対して、博士研究員や時限任用教員などの人員や研究費を重点的に配分する。</p> <p>4. 研究情報の取得を容易にするため、附属情報図書館を充実させる。</p> <p>3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置 (1) 地域連携に関する目標を達成するための措置 1. 地域との連携に向けて、ニーズの把握・発掘に努めるために、地域連携機構を中心とする大学の体制を整備する。</p>	<p>引き続き、入試結果をもとに入試制度等について検証を行い、継続的な見直しを行う。</p> <p>3-1 留学生の増加を図るため、海外大学への訪問や大学フェア等を通じ、本学及び本学の受入れプログラムのPRを行う。 8月に完成し、10月から運用を開始する留学生会館（仮称）の効率的運用を図る。</p> <p>引き続き、社会システムマネジメントコースにおける短期学習プログラム（国際建設プロジェクトマネジメントコース）を実施する。</p> <p>4-1 大幅な改修をはかった大学ホームページ上で本学の活動情報のすべてがリアルタイムに発信され、多様なステークホルダーが必要な情報を容易に取得できる体制を再構築する。 高校生への直接的な訴求を念頭に、オープンキャンパスの内容や回数を含め、改善策を検討する。 プレスリリースを強化し、高知・四国エリアから全国、さらには海外へと広げ、本学の存在感の拡大を目指す。</p> <p>2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置 1-1 各研究所と学群・学部間での異分野交流を促進するためにサイエンスカフェ等を活用する。 また、YSS(Young Scientist Seminar)を発展させ、若手だけでなく中堅研究者まで世代の幅を広げることで研究者間の交流等を促進する。</p> <p>2-1 交流協定大学や卒業生との研究交流を通じ、留学生の勧誘を行う。</p> <p>3-1 研究成果を積極的に学会誌等に発表するとともに、基礎研究をさらに発展させ、実用化も目指す。</p> <p>4-1 他の教育機関や公設試験研究機関等との共同研究について協議し、実施に向けた取組みを行う。 また、fMRIを中心とした共同研究を他大学と協議する。</p> <p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置 1-1 研究本部、地域連携機構の研究体制を強化するため、重要な研究領域に対し、重点的に研究費の配分を行い、研究領域の拡張と高度化を図る。</p> <p>2-1 独創性の高い研究の外部資金獲得を組織的に支援するため、学内研究費による追加支援を行う等の取組みを継続する。</p> <p>3-1 博士研究員（ポスドク）制度について、本学の研究力向上及び若手研究員の育成という目的を明確に示し、適切な人材を確保するとともに、ポスドクの成果を適切に評価することにより、特任講師制度の効果的な運用を継続する。</p> <p>4-1 附属情報図書館の図書資料を充実させるとともに、利用促進のための情報発信と利用者教育を強化する。 簡便かつ高度な検索機能を持つ学術情報一括検索ツールを導入し、研究者の調査活動及び初学者の学術情報取得活動を支援する。</p> <p>3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置 (1) 地域連携に関する目標を達成するための措置 1-1 地域のニーズや特性を踏まえ、特色ある研究を推進するため、引き続き、地域連携機構に配置したプログラムオフィサー及び地域連携コーディネーターの活用を図る。</p>

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)
<p>(2) 地域への開放に関する目標 地域に開かれた大学として、高知工科大学の知的資源及び施設の活用により、県民ニーズに対応する公開講座及び社会人を対象とした教育講座などを行う。 また、災害時に高知工科大学の資源を地域に還元することができるように、日ごろから地域及び関係機関との連携を図る。</p> <p>(3) 地域の活性化及び振興に関する目標 高知工科大学に、様々な人、情報及びリソースが行き交う場を形成することによって、県内産業の活性化につなげる取組を推進する。 また、教育研究活動の成果及び産業界との連携などによる成果を活かして、県の施策の方向性を踏まえた産業振興につなげるための取組を推進する。</p> <p>(4) 県内の大学及び高等学校等との連携に関する目標 地域における高等教育の充実並びに高校生の学習意欲の向上及び進路選択に資するため、県内の大学及び高等学校等との交流及び連携を積極的に推進する。</p> <p>(5) 国際交流に関する目標 海外の大学等との交流及び留学生の受入れなど、高知工科大学の研究力及び国際性を高めるための取組を推進する。</p> <p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標 1 運営体制の改善に関する目標 理事長及び学長のリーダーシップのもと、効率的で質の高い業務運営を行うことができる体制を構築し、これまでの学校法人として培ってきたシステムを更に向上させ、学内の人的及び物的資源を活用しながら、迅速かつ適切な意思決定を行うことができる組織体制を整備する。</p> <p>2 教育研究組織の見直しに関する目標 高知工科大学の教育研究活動の充実及び社会の要請等に対応していくため、教育研究組織の在り方について、中長期的な視点に立って適切に見直しを行う。</p>	<p>2. 地域連携に成果をあげた研究グループを支援する体制を整備する。</p> <p>(2) 地域への開放に関する目標を達成するための措置 1. 地域連携機構を中心として、地域のニーズに応える公開講座を実施する。 2. 情報図書館等の大学施設を地域の研究開発者や技術者を含む地域住民に開放するとともに、その周知を図る。</p> <p>3. 大規模災害に備えて、大学の建物や情報通信設備等の資源の有効活用と、県、市町村、警察、消防等の災害救援活動への協力のための準備を行う。</p> <p>(3) 地域の活性化及び振興に関する目標を達成するための措置 1. 社会人教育、生涯教育を活性化するための拠点を形成するための取り組みを行う。 2. 教員の研究内容、研究成果等に関する情報を公開し、共同研究・受託研究等の受け入れを推進する。 3. 県の施策の方向性を踏まえた地域の活性化及び振興のための活動を行う。</p> <p>(4) 県内大学及び高等学校等との連携に関する目標を達成するための措置 1. 県内大学や県内高校など他の教育機関との戦略的連携を図る。</p> <p>(5) 国際交流に関する目標を達成するための措置 1. 大学の国際性を高めるために、海外の大学との交流や留学生の受け入れを推進する。 2. 国際会議を積極的に主催する。</p> <p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 1. 私立大学として構築した業務体系の長所を継承する。 2. 理事会、経営審議会、教育研究審議会を設置し、経営と教学とが適切な役割分担を行う業務体制とする。 3. 大学としての意思決定の迅速化と業務の効率化を図るための組織体制とし、常に改善を図る。</p> <p>2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 1. 大学教育の質向上を図るために、工学部を工学系3学群へ改編する。(短縮再掲) 2. マネジメント学部や工学系学群における学士課程教育に対応するため、より効果的な大学院教育プログラムを検討し、必要な取り組みを行う。(再掲) 3. 社会人教育、生涯教育を活性化するための拠点を形成するための取り組みを行う。</p>	<p>2-1 地域連携に関連する研究が順調に進展している研究グループに対して、引き続き学長裁量経費等による活動支援を継続する。 (2) 地域への開放に関する目標を達成するための措置 1-1 地域活性化や地域人材の育成に繋がる公開講座などの取組を継続する。 2-1 地域住民の図書館利用を促進するとともに、香美市立図書館ほか、地域の公共図書館等との連携を強化する。 また、附属情報図書館・体育施設等の大学施設を、講義や学生の課外活動に影響のない範囲で開放を継続する。 3-1 引き続き、全学での地震防災訓練を実施する。 市町村等の行政機関の参加を更に促し、地域としての防災意識の向上を図る。 (3) 地域の活性化及び振興に関する目標を達成するための措置 1-1 サテライト教室を中心に、多忙な社会人が学びやすい環境を提供し、ニーズに応じた社会人教育を実施する。 また、永国寺サテライトを平成26年度北舎に移設し教育を実施できるように、本年度末に工事を行う。 2-1 地域との連携による商品開発など、研究成果の実用化を目指して共同研究・受託研究等を着実に継続する。 共同研究などにつなげるため、引き続きビジネスマッチングイベント等に積極的に参加する。 3-1 県や県内自治体等の各種委員会・審議会等への参加、企業等の研究への講師派遣等を通じて引き続き地域貢献を図る。 (4) 県内の大学及び高等学校等との連携に関する目標を達成するための措置 1-1 学校現場(教育委員会)と密に話し合いを持ち、児童・生徒向け教育を実施する。 小・中・高校教員向けの研修プログラムを引き続き実施する。 (5) 国際交流に関する目標を達成するための措置 1-1 本学主催の国際サマースクールを継続して実施する。 8月に完成し、10月から運用を開始する留学生会館(仮称)の効率的運用を図る。 2-1 国際シンポジウムを引き続き開催する。</p> <p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 2-1 私立大学運営の経験を生かし、理事長・学長のリーダーシップのもと、柔軟かつ機動的な公立大学法人としての運営に努める。 3-1 業務運営の改善を行うための体制について検討を行う。</p> <p>2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p>

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)
<p>3 人事の適正化に関する目標 優秀な教員及び事務職員を確保し、及び育成するため、多様な雇用形態、勤務条件、給与制度及び研修制度の導入など、柔軟な人事給与制度を整備する。 また、組織の活性化並びに教育研究活動及び大学運営の質的向上を図るため、評価システム及び任期制をはじめ、職員の努力と実績とが総合的かつ適正に評価される制度を整備する。</p> <p>4 事務等の効率化・合理化に関する目標 学生及び教育研究等に対する支援機能の向上並びに大学運営の効率化を図るため、SD（事務職員及び技術職員など職員全員を対象とする管理運営並びに教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組の総称をいう。）体制を構築するとともに、事務処理方法及び組織体制について、適切に見直しを行う。</p> <p>第4 財務内容の改善に関する目標 1 外部資金その他自己収入の増加に関する目標 外部資金の獲得は、大学の活性化を端的に示す指標となるため、競争的研究資金及び受託研究、共同研究、奨学寄附金等の外部資金を獲得するための取組を積極的に推進する。</p> <p>2 効果的かつ効率的な経費の執行に関する目標 業務の構造の改善及びコストパフォーマンスの向上に必要な投資を行うほか、職員一人ひとりのスキルを向上させる取組を行うことによって、業務運営の効率化及び合理化を進めるとともに、年度を越えた弾力的な予算執行を行うなど、効果的かつ効率的な経費の執行を図る。</p> <p>3 資産の運用管理の改善に関する目標 教育研究及び地域貢献に資するため、法人の資産の適切な管理を行うとともに、その有効活用を図る。</p>	<p>う。(再掲)</p> <p>4. 地域連携機構を発足させるとともに、研究本部、地域連携機構、総合研究所を中心とする研究体制の構築を図る。(再掲)</p> <p>5. 大学の重点課題に対応するため、適正かつ合理的な人員配置を行う。</p> <p>6. 教育研究水準の一層の向上と効果的な大学運営を図るため、財務状況を考慮しつつ中長期的な見通しのもとに、適切な教員及び事務職員の配置を行う。</p> <p>3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 1. 優秀な教員や事務職員を採用する仕組を整備する。</p> <p>2. 職員の能力と実績を総合的に評価する制度を構築し、その評価結果が給与等に適切に反映する仕組を整備する。</p> <p>4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 1. 学内の各種データを大学マネジメント用データベースとして構造的に一元化する。</p> <p>2. 事務職員の能力を高めるために、組織的なSD（Staff Development；職員研修）活動を行う。</p> <p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 1 外部資金その他自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 1. 競争的研究資金の獲得を支援する仕組みを構築する。</p> <p>2. 競争的研究資金を獲得可能な教員を採用する。</p> <p>2 効果的・効率的な経費の執行に関する目標を達成するための措置 1. 業務構造自体の改善のための初期投資を積極的に行う。</p> <p>2. 職員の一人ひとりの技能（スキル）を向上させることによって、業務の効率化を図りながら経費の節減を行う。</p> <p>3. 年度を越えた資金の使用を可能にする等の経費の弾力的使用のための制度を導入する。</p> <p>4. 国からの財政的支援額を考慮して、教育組織と学生定員のあり方を常に検討する。</p> <p>3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 1. 常に資産の把握・分析を行う。</p> <p>2. 法人の自己判断において、厳格な管理と、安全かつ効率的・効果的な運用を図る。</p>	<p>5-1 教育組織の改善に活かすため、経常的に点検する体制について検討を行う。</p> <p>6-1 採用計画等の中長期的な見直しを随時行い、教職員の適正な採用・配置を引き続き行う。</p> <p>また、新社会科学系学部に必要な教員を採用する。</p> <p>3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 1-1 優秀な人材を確保するため、公募内容を広く周知するWebの活用に加え、新たな募集方法を検討する。</p> <p>また、女性教員の比率向上に向け、必要な措置を検討する。</p> <p>2-1 教員に関する教員評価システムと、事務職員の評価に関する職責・職能評価について、随時必要な見直しを行い、適切な運用を行う。</p> <p>4 事務等の効率化かつ合理化に関する目標を達成するための措置 1-1 業務分析を引き続き行い、業務フローやマニュアルの整備等、業務の見える化を更に進め、業務改善を継続的に行う。</p> <p>2-1 前年度作成した事務職員のキャリアガイドをもとに、階層別研修及び各部門別専門研修を実施する。</p> <p>また、海外の教育研究機関での研修を実施する。</p> <p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 1 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 1-1 科学研究費補助金等の審査基準、審査内容及び制度について、各教員の理解を深めるとともに、研究本部が中心となって、引き続き競争的研究資金の応募件数と採択率のさらなる向上を図る。</p> <p>2-1 中期的な見通しのもとに、競争的資金による教育研究活動ができる教員を引き続き確保する。</p> <p>2 効果的・効率的な経費の執行に関する目標を達成するための措置 2-1 業務効率化及び経費削減につなげるため、引き続き事務職員のスキルアップにつながる研修を実施する。</p> <p>3-1 配分教育研究費の年度を超えた繰越制度を継続し、効果的かつ効率的な経費の執行ができる体制を維持するとともに、剰余金を教育研究の発展及び業務運営の改善のために使用する。</p> <p>4-1 運営費交付金、経済情勢、他の国公立大学の動向を注視し、組織や学生数等に応じた教育研究費の配分など適正な予算配分を引き続き行う。</p> <p>3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 1-1 定期的な資産の点検および評価を継続する。</p> <p>2-1 資産台帳をもとに、効率的かつ確実な運用・管理を継続して行う。</p>

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)
<p>第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標</p> <p>1 自己点検及び評価並びに第三者評価に関する目標</p> <p>教育研究活動及び業務運営の改善に絶えず取り組んでいくため自己点検及び評価を定期的に行うとともに、第三者機関による評価を受ける。</p> <p>また、各事業年度における業務の実績及び中期計画の実績について、評価委員会の評価を受ける。</p> <p>法人の自己点検及び評価並びに評価委員会の評価結果などに関しては、速やかに教育研究活動及び法人運営の改善に活用するとともに、積極的に公表する。</p> <p>2 情報公開等に関する目標</p> <p>広報活動を充実するとともに、法人の業務運営及び高知工科大学の教育研究活動の成果等に関する情報を公開することによって、説明責任を果たしていく。</p> <p>第6 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>1 施設設備の整備、活用等に関する目標</p> <p>良好な教育研究環境を確保するため、施設設備の機能保全及び維持管理を計画的に実施するとともに、既存の施設設備の有効活用を図る。</p> <p>2 安全管理に関する目標</p> <p>安全で安心な教育研究活動を確保するため、高知工科大学内の安全管理体制を整備するとともに、事故等が起きた場合に適切に対処することができるよう危機管理体制を整備する。</p> <p>3 社会的責任に関する目標</p> <p>各種ハラスメントなどの防止に努めるとともに、研修会及び相談制度などによって、より一層、職員及び学生の意識の向上を図る。</p> <p>また、法人の社会的信頼性及び業務遂行の公正性を確保するためのコンプライアンス(法令等を遵守すること。特に、企業活動等において、社会規範に反することなく、公正かつ公平に業務遂行することをいう。)推進体制を構築する。</p> <p>4 環境保全等に関する目標</p> <p>法人の社会的責務として環境保全に努めるとともに、環境への負荷の低減などに関する研究活動を教育及び社会貢献につなげながら進展させる。</p>	<p>第5 教育・研究及び組織運営に関する自己点検・評価並びに情報提供に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 自己点検評価及び第三者評価に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 中期目標・中期計画に即して自己点検評価を企画・実施し、その結果を大学運営に反映する。</p> <p>2. 中期目標の期間中に、認証評価機関の評価を受ける。</p> <p>2 情報公開等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 学長と情報集積本部の指導の下に適切な組織情報の開示を行う。</p> <p>2. 大学のWEB サイト(リポジトリのページ等)を用いて、大学の知的資産を公開し、持続的な情報発信を行う。</p> <p>第6 その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 施設設備の利用状況を常時調査し、その結果を全学的視点での有効利用に活用する。</p> <p>2. 施設設備の現状を把握し、老朽設備の計画的な更新を進める。</p> <p>3. 地震等の大規模災害時における地域の避難場所として対応できる建物・設備の維持や整備に努める。</p> <p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 労働安全衛生法等に基づく安全管理体制を確保し、学生・職員の健康保持及び安全衛生に努める。</p> <p>2. 学内の危機管理体制を構築し、さまざまな状況に対する訓練を行うことによって、危機管理能力を向上させる。</p> <p>3 社会的責任に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 各種ハラスメントに対するマニュアルを作成し、学生・職員に配布する。</p> <p>2. 職員を対象とした研修会を充実させるなど、より一層の意識の浸透を図る。</p> <p>3. 学生と職員との相談制度を充実する。</p> <p>4. 学内にコンプライアンスを推進するための委員会を設置して、研修会等を実施する。</p> <p>4 環境保全等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1. 教育研究活動によって生じた廃棄物の適切な処理を行う。</p> <p>2. 環境保全や環境への負荷低減に貢献する教育研究の推進を支援する。</p> <p>3. 再生可能廃棄物のリサイクルや教育研究活動における省エネルギーを推進する。</p>	<p>第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 自己点検及び評価並びに第三者評価に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 中期計画の進捗状況を点検する。</p> <p>2-1 認証評価での指摘事項について、必要に応じて改善を図る。</p> <p>2 情報公開等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 学内情報の積極的な開示を継続して行う。</p> <p>2-1 リポジトリ収録数を着実に増加させるとともに、リポジトリへの理解と協力を促進するための広報を強化する。</p> <p>第6 その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置</p> <p>1 施設設備の整備、活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 施設設備の有効活用を図るとともに、共用研究機器について、稼働実績等をもとに見直しを行い、質の高い研究成果や設備の効果的な活用を継続する。</p> <p>2-1 計画修繕に基づき、教育研究棟A・Bの改修工事を行う。</p> <p>また、全学に係る防災システム(基幹部)及び中央監視システムの一部を更新する。</p> <p>3-1 香美市との協議を継続して行い、備蓄品の充実を図る。</p> <p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 衛生委員会を中心に、安全管理を引き続き推進する。</p> <p>2-1 高知県内5大学で構成される高知学長会議の防災WGの活動を継続して行う。</p> <p>危機管理本部を設置し、防災対策、安全な施設設備への取組みだけにとどまらず、ハラスメント、メンタルヘルス対策、海外での事故など総合的な危機対策に取り組む体制を整える。</p> <p>3 社会的責任に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 新入生に対し、オリエンテーション時にハラスメント講習を引き続き実施する。</p> <p>また、相談員と窓口の充実を図る。</p> <p>2-1 教員綱領や学内での支払いルールなどを記載した教職員便覧を作成し、教職員に配布することで、意識の向上を図る。</p> <p>4-1 コンプライアンスの視点からの、業務監査を行う。</p> <p>5-1 地域防災に資するため、周辺地域と連携した防災訓練の実施などを検討する。</p> <p>4 環境保全等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 「廃棄物管理要綱」及び「廃棄物管理要領」を適切に運用する。</p> <p>2-1 環境保全や環境への負荷低減に貢献する活動を推進する。</p> <p>3-1 高効率照明器具の導入による省エネ効果を検証し、有効なエリアから順次更新を行う。</p>

中期目標	中期計画	年度計画(平成 25 年度)
		<p>5 法人のあり方に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1 永国寺における教育研究の連携、学生生活等についての協議を進める。</p> <p>2-1 法人組織、大学組織及び事務組織等の協議を進める。</p> <p>3-1 給与制度、就業規則等の協議を進める。</p> <p>4-1 資産管理方法及び経費執行制度等の協議を進める。</p> <p>5-1 大学の情報システム、ネットワーク等の協議を進める。</p>